

村上収氏の御逝去を悼みて（三訂稿）
—『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況
中巻—台湾社会運動史—』編纂過程の究明によせて—
—日本統治下台湾警察史の一齣—

（令和 6（2024）年 11 月 10 日（日）現在）

（補正経緯）

HP 初出：平成 29（2017）年 8 月 20 日（日）初校作成
令和 4（2022）年 7 月 30 日（土）改訂稿作成
（レイアウト全面変更、一部補正、追加）
令和 6（2024）年 11 月 10 日（日）三訂稿作成
（レイアウト一部変更、奴田原央聿氏関係記事追加）

〔目 次〕

村上収氏の御逝去を悼みて	1
【参考】『台湾総督府警察沿革誌』の全体構想と刊行状況	3
【追記】奴田原央聿氏の御逝去を悼みて	4
【附録】本 HP 掲載鷺巣敦哉氏関係資料一覧	5

村上収氏の御逝去を悼みて

台湾協会会員村上収氏（おさむ、1924～2017）には平成 29（2017）年 5 月 20 日長逝された。享年 93。寔に痛惜の念に堪えない。御生前に賜った御厚情に深甚の謝意を表するとともに、謹んで御冥福をお祈りいたすものである。同氏の厳父は日本統治下台湾史研究上の貴重史料といわれる台湾総督府警務局編『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況 中巻—台湾社会運動史—』（同、昭和 14（1939）年 7 月 28 日刊）の実質的著者である村上克夫氏（よしを、1899～1974）であるが、同氏が長く不明であった同書の編纂過程の詳細について明らかにされたことは忘れてはならないことである。これに関しては、以前にも言及したことがある¹が、今改めてその一端を記し、御功績を紹介しておきたいと思う。

周知のように、有名な台湾総督府警務局編『台湾総督府警察沿革誌』（既刊全五巻、戦後緑蔭書房より復刻本あり。本稿末尾【参考】参照。）の編者は同局嘱託であった鷺巣敦哉氏

¹ 本 HP 別稿「鷺巣敦哉と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」（初稿：平成 17（2005）年 3 月 15 日作成、（HP 初載）：改訂稿：平成 19（2007）年 8 月 6 日作成、以後逐次補訂中）参照。

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf>〉

(わしすあつや、1896～1942)²であるが、うち最も重要な上記第二編中巻については、同書巻頭の凡例に「[督府警務局保安課] 属村上克夫、小林松三郎輯録、警察沿革誌編纂事務嘱託鷺巣敦哉修校正其他を担任せり。」とだけあって、鷺巣氏とこの二人の属の果たした役割については、久しく不明のままであった。

しかるに、これに関して、中島利郎教授が平成零年代末頃に『台湾警察時報』を精査し、その後『鷺巣敦哉著作集』V(緑蔭書房、平成12年12月10日刊)に鷺巣敦哉「道聴塗説・警察沿革誌第二編本を作る苦しみと楽しみ」(第270号、昭和13年5月刊。V 365頁以下)及び同「警察界道聴塗説・栄転せし小林光政氏・本島社会運動史」(282号、昭和14年5月刊。V 414頁以下)の両稿を復刻されたことにより、その編纂過程がほぼ判明し、村上克夫氏が直接執筆されたことがわかった。

これを受け、更に詳しい内容を知りたく、『台湾協会報』第557号(平成13年2月15日)に「(尋ね人) 村上克夫氏」を掲載していただいたところ、幸いにも村上収氏と電話にてまず連絡がとれ、貴重な御教示を頂戴できた。その時、あれだけの著作を残されたお方であるので、戦後にかなりの回想録を残されたのではないかと思い、その旨お尋ねすると、早速探して下さったが、執筆のことすら御家族の誰にも知られないまま令弟宅に保存されているのが判明した。

次いで、村上収氏がそれを携えて上京されたので、お会いし拝見するに、当然極めて重要なものであった。そこで、是非とも活字化の御検討をしていただくとともに、厳父の思い出その他を御執筆いただきたい旨お願いした。ただ、残念なことに諸般の事情で御自身では書かれず聞き書きの形であればとのことであったので、そのような形にして、急遽「村上克夫氏について—『警察沿革誌』Ⅲ(台湾社会運動史)の「輯録」者—(前・後)」『台湾協会報』第563、564号(平成13年8月15日刊、同9月15日刊)としてまとめた。

その後、同稿は、上記小林松三郎氏(1896～1980頃、後に新竹警察署長、陸軍司政官、爪哇(ジャワ)で終戦、復員)及び小林、村上両氏の直属上司であった督府警務局保安課事務官(警務官)山本暉氏(すすむ、1896～1965、戦後初代高知市長、弁護士)の件をも追加して補訂の上、『鷺巣敦哉著作集』別巻(緑蔭書房、平成14年1月31日刊)巻末参考資料中443～448頁に再録した。

なお、小林松三郎氏については、更に台湾警察時代小林氏の部下で当時新竹警友会会長であった大貫敏之氏(1907～2006)の御懇篤な御示教を得て「小林松三郎氏について—『台湾総督府警察沿革誌』Ⅲ「輯録」者の一人—(前・後)」(『台湾協会報』第613、614(平成17年10月15日刊、同11月15日刊))として別途成稿したが、残念ながら小林氏の戦後のことは不明なところが多い。

こうしたことにより、村上克夫氏の業績については、多少なりとも明らかにすることができたが、上記村上克夫の残された回想録そのものについては、村上収氏がその後大変な御努力をされて整理の上自費出版されたとお聞きする。台湾総督府警察のある方面での実務的権威であった同氏の回想録であることから、重要なものであり、ただただ敬服に堪

² 鷺巣敦哉につき、本 HP 別稿「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」(HP 初出) 初稿:平成19(2007)年8月15日作成、以後逐次補訂中)参照。

(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>)

えない次第である。

かくして、村上収氏の御尽力により、『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況 中巻—台湾社会運動史—』の著者である厳父村上克夫氏の御事績が後世に伝えられ、同書編纂過程がかなり究明できたことは、日本統治下台湾史研究上大きな意義があることと思料する。

【参考】『台湾総督府警察沿革誌』の全体構想と刊行状況

・『台湾総督府警察沿革誌』は、昭和 8（1933）年より同 17（1942）年にかけて、台湾総督府警務局編として、次のように刊行された。

- ① 『第一編警察機関の構成』（昭和 8 年 12 月 15 日刊）（緑蔭書房復刻本『沿革誌』Ⅰ。）
- ② 『第二編領台以後の治安状況上巻』（昭和 13 年 3 月 31 日刊）（同『沿革誌』Ⅱ。）
- ③ 『第二編領台以後の治安状況中巻—台湾社会運動史—』（昭和 14 年 7 月 28 日刊）（同『沿革誌』Ⅲ。）
- ④ 『第二編領台以後の治安状況下巻—司法警察及犯罪即決の変遷史（刑事警察制度の変革）—』（昭和 17 年 3 月 29 日刊）（同『沿革誌』Ⅳ。）
- ⑤ 『第三編警務事績編』（昭和 9 年 12 月 17 日刊）（同『沿革誌』Ⅴ。）
- ⑥ 別編『詔勅・令旨・諭告・訓達類纂』（昭和 16 年 3 月 31 日刊）（『沿革誌』別篇。なお、台湾総督官房文書課『諭告訓達類聚』（昭和 19 年 3 月 29 日刊）はその続巻になる由。）

この他、⑦『台湾警察遺芳録』（台湾総督府警務局編、昭和 15 年 4 月 1 日刊。『遺芳録』。）があるが、これも『沿革誌』の「外篇」という性格を有する（『鷺巣敦哉著作集』Ⅴ 367 頁）。

・ただ、『台湾総督府警察沿革誌』の当初構想は、これより大きなものであり、例えば、『沿革誌』Ⅰ「凡例」、鷺巣敦哉『台湾警察四十年史話』（『鷺巣敦哉著作集』Ⅱ）「自序」等は、その全体構想を示しているので、御参照を乞いたい。

【新出警察関係資料紹介】・九州・山口台湾総督府警友会『台湾の思出』第 1 号（明治百年記念）（九州・山口台湾総督府警友会、昭和 43 年 11 月 17 日刊）（木村貞次郎氏、大澤兼太郎氏（鷺巣敦哉氏義兄）等のものあり。第 2 号以降は発行されずか。）

【追記】

奴田原央聿氏の御逝去を悼みて

R06-0911907 現在 最終改訂 R06-110410

台湾協会で長く評議員、理事、監事を務められた奴田原央聿氏（ぬたはら たかのぶ、1939～2024）には、去る令和 6（2024）年 5 月 6 日に長逝された。84 歳。寔に痛惜の念に堪えない。謹み御冥福をお祈りいたすものである。同氏は長年実業界で活躍されるとともに、協会の発展にも多大の貢献をされ、平成 24（2012）年の新法人設立時には重要な新制度対応委員会委員五氏中の御一方でもあられた。御母堂奴田原輝子様（1914～2005）の『教育の小径』（あゆみ出版、昭和 60（1985）年 3 月刊）は、台湾追想記載も多々あり、その方面の検討には必読の著作であるといえる（奴田原輝子様関係：『台湾協会報』第 368 号（1985.5）、第 613 号（2005.10）各参照。）。

奴田原氏の御高名は夙に存じ上げていたが、お会いできたのは遅れて平成 28（2016）年 6 月の協会のとある会議の席上であった。その時「村上収（おさむ、1924～2017）は義兄です。」といわれたのには驚いた。村上氏の厳父は、日本統治下台湾史研究についての「基本資料中の基本史料」（若林正文教授の言）といわれる驚巢敦哉氏（1896～1942）編纂の『台湾総督府警察沿革誌』（台湾総督府警務局編、全五巻）中最重要の『第二編 領台以後の治安状況 中巻—台湾社会運動史—』（同、昭和 14（1939）年 7 月刊）の実質的著者である村上克夫氏（よしを、1899～1974）である。一時期私は中島利郎先生御指導の下、驚巢敦哉氏と村上克夫氏の個人史に関心を有していたが、村上克夫氏の御遺族のことは皆目わからなかったもので、当時の『台湾協会報』編集氏にお願いして今もある「(尋ね人)」欄で問いかけていただいたところ、すぐ村上収氏から電話があつて驚愕した。『台湾協会報』を読んだ知人から「(尋ね人)」云々の件を聞かれたとのことであつたが、奴田原氏とお会いしてはじめて、その知人が同氏であつたことがわかつて感激した次第である。その時は、往時台北市の中心街だった栄町に居住されていた頃の思い出、御岳父のこと等いろいろなお話を承った（奴田原氏関係：『台湾協会報』第 516 号（1997.9）、第 682 号（2011.7）各参照。）。村上克夫氏については、その後思わぬところから御遺稿が発見され、村上収氏により翻刻本（私刊）として出されたが、台湾、厦門等同氏勤務地時代の回顧録であつて、これまた貴重なものであり、最近では若手の研究者も同書に留意しておられるようである。

奴田原氏とは会議の都度楽しくお話しをさせていただいたが、御健康上のことからか一年程で出席されなくなったので、爾後はお会いすることはなかった。その御音容が今も偲ばれるところである。改めて奴田原央聿氏及び村上収両氏から御生前に賜った御厚情に深甚の謝意を表する次第である。

（令和 6（2024）年 9 月 19 日記）

【附録】本 HP 掲載鷺巣敦哉氏関係資料一覧（令和 4（2022）年 7 月 30 日追加）

・「鷺巣敦哉氏と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>〉

・『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）概要—日本統治下台湾警察史の一齣—」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉

・『鷺巣敦哉著作集』V（「雑誌所収著作」：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）、同別巻（「警察試験叢書・雑誌所収著作補遺・索引」：同、平成 14 年 1 月 31 日刊）及び『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（同、平成 26 年 7 月 31 日刊）所収論稿一覧—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukiko.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏著『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（台湾警察協会、昭和 18 年 9 月 20 日刊）・雑誌『台湾地方行政』比較対照表（三訂稿）—『鷺巣敦哉著作集』IV（『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）参考資料— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukaiko.pdf>〉

・「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題及解答集』（警察試験叢書第四編、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊）の再発見—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』（昭和 19 年 1 月刊）—警—最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希覯書二題— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>〉

・「村上収氏の御逝去を悼みて—『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況 中巻—台湾社会運動史—』編纂過程の究明によせて— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/murakami001.pdf>〉

・「木村貞次郎氏台湾語関係著作目録抄—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kimura001.pdf>〉

（了）